

# マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」#12 原作シナリオ

山崎浩治

## マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 1 2 原作シナリオ

---

### # 1 「スナック香澄」店内

カウンター席で吉岡とトオルが話している(カウンター内にはアヤカと香澄ママ、ほかに美鈴などがいる)。

吉岡「トオル君は昔からモテたろ」

トオル「高校の卒業式ん時、学生服のボタンは全部女子にあげましたね」

アヤカ「第2ボタンは誰にあげたの」

トオル「誰だったかな。覚えてないな」

香澄ママ「まあ、ひどい。あたしなんでもらった第2ボタン、いまでも持ってるわよ」

香澄ママの横顔を見つめる吉岡の切ないまなざし。

吉岡のM「第2ボタンの持ち主は高校の先輩だった……」

### # 2 「金沢第一高校卒業式」の立て看(回想)

卒業生たちがあちこちで記念撮影している。

### # 3 同・校舎の下駄箱(回想)

恥ずかしそうにうつむいた高校時代の香澄が桐島先輩の第2ボタンをもらっている。

吉岡のM「桐島先輩はイケメン、秀才でサッカー部のキャプテン。香澄はバスケット部のエースで校内でも評判の美人……オレはずっと同級生の香澄に片思いしてたけど、地味なオレのことなんて眼中にもなかつただろう」

2人の様子を下駄箱の陰から見ている鈍くさい感じの高校時代の吉岡。

### # 4 高級クラブのボックス席(回想)

ドレス姿の香澄とスーツ姿の桐島が親密そうに話している。

吉岡のM「社会に出た2人はいったん別れたけれど、香澄が片町で働くようになって再び付き合うようになった」

### # 5 片町の夜景(回想)

ネオンの下で別々の道を歩き出す香澄ママと桐島先輩。

吉岡のM「でもその時、桐島先輩には妻子がいて、2人は結局、別れた」

### # 6 もとの「スナック香澄」店内(現在)

吉岡のM「そんな桐島先輩が最近、離婚したらしい」

店の隅に七夕の笹を飾り付けている香澄ママ。

美鈴「香澄ママ、願い事書いてもいい？」

香澄ママ「(ニッコリ微笑んで)うちの短冊に書くと、願い事が叶うのよ」

トオル「(短冊に何か書き出す)……」

#7「居酒屋まわりみち」店内(別の日)

作務衣姿で働くアヤカがいる。

アヤカのM「それは七夕の夜でした」

カウンターでぼんやりしている吉岡の前にグラスを置くアヤカ。

アヤカ「ハイボールのウイスキー抜き、お待ち！」

吉岡「(我に返って)今日はアヤカちゃん、こっちでバイトか」

アヤカ「珍しいですね、吉岡さんがスナック香澄に行かないなんて」

吉岡「(自嘲気味に)今夜は七夕だからな。織姫と彦星が久しぶりに出会う日なんだよ。オレの出る幕なんか無いんだ(とグラスを呷る)」

アヤカ「(首を傾げて)……？」

トオル「(会話に割り込んできて)香澄ママの元カレが来てるんだって」

美鈴「お店終わって顔出したんだけど、イイ雰囲気だからこっちに来ちゃった。えへへ」

吉岡「(ヤケクソ気味に)アヤカちゃん、ハイボールお代わり！ ウイスキー抜きに！」

アヤカ「吉岡さん、飲めないのに大丈夫ですか」

吉岡「これが飲まずにいられるかよ……」

#8「スナック香澄」店内

カウンター席にスーツ姿の桐島が座っている(店内に他の客はいない)。

桐島「オレ、離婚したんだ」

香澄ママ「そうですね……離婚はあたしのせい？」

桐島「香澄と付き合うずっと前からオレたち、ダメになってた」

香澄ママ「……そう」

桐島「オレは別れてからもずっと香澄が好きだった。オレたち、やり直さないか」

香澄ママ「……」

#9「居酒屋まわりみち」店内

酔い潰れている吉岡を心配そうに見守るアヤカ、美鈴、トオル、末吉マスター。

トオル「吉岡さんは香澄ママが元カレにとられちゃってもいいんですか」

吉岡「(カウンターに顔を伏せて)桐島先輩はエリートサラリーマン。地味な公務員のオレじゃ、どうせ勝負にならんよ」

アヤカ「そんなの、やってみないと分からないじゃないですか！ 吉岡さんの気持ち、ちゃんと香澄ママに伝えましょうよ！」

美鈴「気持ちはずっと伝えてる。香澄ママは吉岡さんの気持ち、百も承知」

アヤカ「……ですよ」

吉岡「(グラスを呷り)オレは香澄が幸せになってくれたら、それでいいんだよ」

黙り込む一同。

その時、店に香澄ママが入ってきた。

一同「香澄ママ！」

香澄ママ「お客さん、誰もいなくなっちゃったから店閉めてきたわ。みんな、ここにいたのね。仲間外れにしないでよ(吉岡の隣に腰を下ろす)」

吉岡「(顔を上げて)桐島先輩、来てたんだろ。プロポーズされたんじゃないのか」

香澄「されたけど……断ったわ」

吉岡「好きだったくせに」

香澄ママ「桐島さんとはずっと前に終わってるのよ」

吉岡「先輩からもらった制服の第2ボタン、いまでも持ってるくせに……」

香澄ママ「記念として持ってるのは第2ボタンだけじゃない。あたしがお水になった時、初めてボトル入れてくれたの、吉岡くんだったよね。吉岡くん、お酒飲めないくせに通ってくれて。その時のボトルだって、ちゃんと持ってるんだから。あたしの大切な宝物」

× ×

インサート。

「スナック香澄」の棚の奥にひっそりと置かれたウイスキーのボトル。

「頑張れ香澄 ずっと応援してるからな 吉岡」とサインペンで記されている。

香澄ママのM「吉岡くんは高校の時からずっとあたしを応援してくれてた」

× ×

インサート。

バスケの試合中、コートを走る高校時代の香澄。

体育館の観客席で必死に応援している吉岡。

× ×

吉岡「香澄は高校時代のオレに気付いてたのか？ 口もろくに利いたことなかったのに」

香澄ママ「当然でしょ、同級生なんだから。それに、あんなにずっと見られてたら動物園のゾウでもない限り、気付くわよ。ありがとね、吉岡くん」

吉岡「(泣き笑いで)香澄、オレと結婚してくれ！」

香澄「(即答して)結婚はまだ考えてないの」

美鈴「返事、速っ！」

吉岡「(落胆して)……」

末吉マスター「香澄ちゃんは、嫌い、とは言っとらんぞ。ま、頑張りな吉岡さん、ハイボールのウイスキー抜きでも飲んで(吉岡の前にグラスを置く)」

吉岡「よ～し、頑張るぞ！」

末吉マスター「香澄ちゃんには焼きおにぎりのお茶漬け。ホステスだったころ、好きやったろ(と香澄の器を置く)」

香澄「(目を輝かせ)いまも大好きよ、マスター！」

#10 「スナック香澄」店内

飾られた笹の短冊に「香澄と結婚できますように」「サトシ君との恋が実りますように」「末吉マスターが振り向いてくれますように」「あかりちゃん大好き！」などの願い事が記されている。

アヤカのM「スナック香澄のお客さんは片思いしてる人ばかり……あっ！」

短冊の一つに「いつかアヤカちゃんとデートできますように」とある。

アヤカのM「この願い事、書いたの誰!？」